



episode.08

冬を彩るシクラメンの花々

話し手 有限会社 東花園
ひがし よしひろ
東 義弘さん (昭和35年11月22日生)

聞き手 鹿児島県立薩摩中央高等学校
1年 池島 伊吹 1年 榎田 美沙子
1年 高江 つくし 1年 島中 彰仁



「シクラメンの1年」

シクラメンの苗は、外注でメーカーさんに3、4か月管理してもらっています。うちの場合は種を11月下旬に蒔いてもらって、苗になってこっちに来るのが3月の中旬ぐらいですね。来た苗は3号ポットに鉢上げをします。それから、6月上旬に5号鉢・6号鉢に定植。そして本鉢に入れて夏の頃から手入れが始まって9月に入って、枯葉取りと葉組みを並行してやっていくんです。葉組みというのは、株元に光が当たるように、又放射線状に葉っぱを外へ引っ張って形を整えていく作業です。10月下旬の今はちょうど葉組みをやっています。一鉢5~6分はかかるかな。葉組みをしたときが一番綺麗ですよ。時間がたつと少しずつ葉がばらけてしまうから出荷までに2~3回行っています。そして、ようやく出荷できるのがだいたい11月下旬から12月中旬くらいまでですね。

「栽培のきっかけ」

元々、実家は葉たばこを作っていたので、子どもの頃は家の手伝いをさせられましたね。大学は農学部を卒業して、就農する時に隙間産業じゃないけど、県内で生産者も少ないし、市場でも高値で流通しているのを知っていたので、やるならシクラメンに決めていました。当時シクラメンは鹿児島では生産者・生産量共に少なく、始めた頃は花のことも、栽培のことも全く分からず、いろんな生産者の所へ視察に行っていました。特に福岡の生産者の所へ多い時は週に一回は行ってました。最初は見様見真似って感じでしたね。今、シクラメン歴は四十年です。それとアジサイとガーベラの三種類作っているところです。シクラメンは5号鉢・6号鉢合わせて9,000鉢ぐらい、アジサイが年によって違うけど5号鉢で3,000~4,000鉢ぐらい、ガーベラは4号鉢で1万6,000鉢ぐらいありますね。



「暑い地方でのシクラメン栽培」

シクラメンってそもそも涼しい所の方が栽培には向いているんですよ。産地も関東地方とかが多いです。鹿児島だと夏場が暑すぎるんですね。暖かい鹿児島で栽培するには、遮光といって光を少し遮る資材を使いながら夏場ちょっと涼しくしています。私の所には、夏場の夜間だけ冷房を使います。シクラメンの生育の適温が20℃前後。夏場は、夜に冷房を21℃くらいにすると、シクラメンが秋みたい生育します。普通、夏場は葉っぱが10枚くらいしか出ないとすると、秋はその倍くらい増えるんです。その様に冷房と遮光を組み合わせながら鹿児島でも素直に生育できてるなと思います。

「栽培をする上での“苦労”や“やりがい”」

大変なことは、やっぱり台風が一番心配なんですよ。ハウスとか施設が被害を受ける可能性があるし、温室の管理とかね。でも、大変さよりも、とにかく良いものを作りたいというのが第一かな。やっぱり、買ってくれた人が満足しなかったらもうアウトだと思ってます。シクラメンを買われる方って「正月にシクラメンを飾っておきたい」という方が多いんですよ。上手に管理すると4月~5月頃まで咲き続けます。

自分が目標にしている花の佇まいといいますか、シクラメンの形の理想があって、それに向かって作業するから仕事は楽しいですね。まあ、常にうまくいくわけでもないですけどね。「その理想に少しでも近づけるように」とって思いながらやってるんです。

